

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



2002. 9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 221

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 2002年 ハトポッポ通信

今回は識別についてのお話はなし。今年も、バードウォッチングを通してさまざまな自然に接し、さまざまな人々に巡り合ってきたが、「こんなことがあったよ」という今年前半の中間報告をひとつ。

榎本秀和 鴻巣市

## ◇城峯公園にて

今年5月26日朝、私は城峯公園(児玉郡神泉村)の周辺を歩いていた。前日からの支部の一泊探鳥会に参加し、この朝は夜明け前から起き出しての早朝探鳥というわけである。

しだいに夜も明け、適度な空腹に急かされて、つづら折りの緩い山道を登って行くと、どこからかアオバトの声。次のカーブを曲がって間もなく、正面から何か飛んでくる、飛んでくる。

「アオバト!」と叫ぶ私の声に、一同は頭上の鳥影を見上げ、見送っていた。あつという間のことだったが、緑色の羽毛がほんのり朝日に映えて美しい。

そういえば、埼玉県内でアオバトを見るのはずいぶん久しぶりだ。そんなことをぼんやり考えていた次の瞬間、すごいことに気がついてしまった。

私はここ何年か、1年単位で観察種数の記録をつけているのだが、「ありゃ〜、今のアオバトで、今年日本のハトをもう全種見ちゃったよ!」というわけである。

## ◇ハト類とは

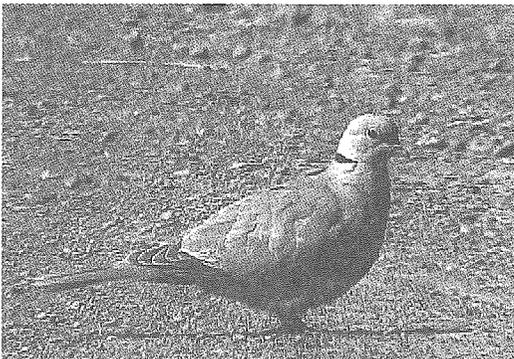
ハト目ハト科に分類される鳥たちは、ほぼ世界中に分布し、体の大きさや色彩はさまざまではあるが、ふっくらした胴体に小ぶりの頭という共通した体形を持った、わかりやすいグループである。

英語では pigeon とか dove とか呼ばれるが、学術的に厳密な区別はない。比較的大型の種が pigeon、小型の種が dove という感もあるが、多くは慣用によるものようである。

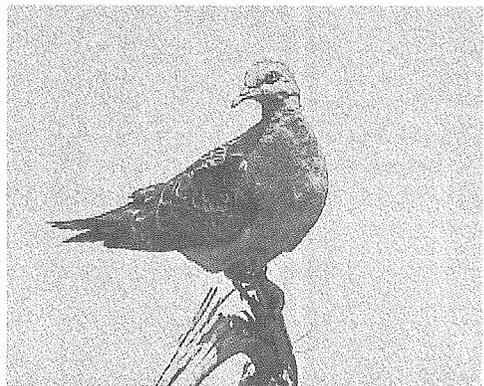
ベテランの方なら鳩目鳩科という文字をご記憶かも知れない。これでハト目ハト科と読んだ。鳩も鴿も訓は「はと」である。

中国の図鑑では、種によって「鳩」と「鴿」の文字の使い分けがあるが、英名の pigeon と dove の使い分けとは合致しない。

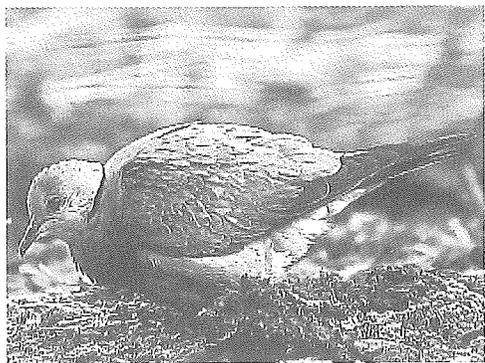
さて、絶滅種と、鳥類目録上では未公認のヒメモリバトを除外すれば、日本国内で見られるハトの仲間は7種となる。特定の科の鳥を半年足らずの間に全部見てしまう、というのは、私のバードライフを振り返ってもちょっと記憶にない珍事といえる。



シラコバト



亜種リュウキュウキジバト



ベニバト

◇石垣島・与那国島ツアー

しかし珍事には理由(わけ)がある。

この3月下旬、私が世話人ということで、個人的な石垣島・与那国島探鳥ツアーを行なったのだが、「ハトハトツアー」といわれたほどハトに恵まれて、石垣島でキンバト、ズアカアオバト、与那国島ではベニバト、カラスバト、もちろん両島でキジバトと、ハト5種をチェック。これが効いているのだ。

キンバトは、国内に別亜種はいないが、あえて亜種名を挙げればリュウキュウキンバトである。

ズアカアオバトは沖縄本島までは亜種リュウキュウズアカアオバトであるが、宮古島以南は亜種チュウダイズアカアオバトとなる。

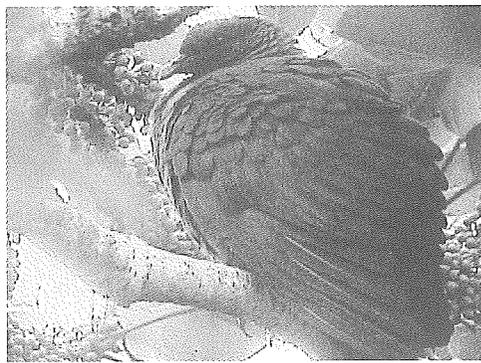
カラスバトは、当支部の三宅島探鳥会で毎年見てきた亜種カラスバトとは異なり、宮古島以南は亜種ヨナクニカラスバトという。小笠原諸島のものとも別亜種である。

キジバトも南西諸島のものは亜種リュウキュウキジバトであり、これまた本土の亜種キジバトとは異なる。

ベニバトは想定外の出現で、見つけるやいなや、スコープをひつつかんでバスを駆け降りるくらいの興奮ものだった。何しろ、世話人自らライフリストを1種増やしてしまったのだから。

◇おわりに

キジバト・シラコバトは我が家の近所にも普通にいます。それらを元旦からチェックして、我がバードライフは今年も好調なスタートを



亜種ヨナクニカラスバト

切ったかに思われたが、正月早々、私はふとしたことから頭にケガをして入院するはめになった。2月もその後遺症(?)やら検査やらで鳥どころではなかったのであるが、幸いにも3月には前述のように南の島々を旅することができた。

先が思いやられる2002年の始まりだったが、「ハト科7種制覇」を大切な思い出として、大晦日には楽しく1年を振り返りたいものである。

ところで皆さんは、埼玉の県鳥シラコバトの学名をご存知だろうか？ シラコバトの種小名 *decaocto* はギリシア語で「18」のこと。我らが「しらこぼと(=埼玉県支部)」も先日18回目の総会を迎えることができ何よりである。



キンバト

(写真は全て海老原美夫)

# 日本野鳥の会埼玉支部規約

## 第1章 総則

第1条(名称) この支部は財団法人日本野鳥の会(以下本会と称す)の寄付行為31条に基づき設立され、日本野鳥の会埼玉支部(以下支部と称す)と称する。

第2条(事務所) 支部は事務所を埼玉県さいたま市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号室に置く。

第3条(目的) 支部は自然にあるがままの野鳥に接して楽しむ機会を設け、また野鳥に関する科学的な知識及び、その適正な保護思想を普及することにより、県民の間に自然尊重の精神を培い、もって人間性豊かな社会の発展に資することを目的とする。

第4条(事業) 支部は第3条の目的を達成するために次の事業を行なう。

1. 探鳥会その他の催し物の実施
2. 野鳥等の調査、研究
3. 野鳥を中心とした自然保護に必要と認められる諸活動
4. 支部報その他の出版物の刊行及びその頒布
5. 会員相互の親睦、品位保持、向上に関する施策
6. その他支部の目的を達成するために必要な事業

## 第2章 会員

第5条(構成員) 支部会員は原則として埼玉県内に居住する本会の会員で構成する。

第6条(会費) 1. 会員は総会において定める会費を納入しなければならない。

2. 会員の資格を失った時、既に納めた会費の返還はしない。
3. 会員の種別と会費、入会金は次の通りとする。

個人特別会員 本会会誌『野鳥』と支部報『しらこぼと』を購読する会員  
年会費 12,000 円(本会会費 10,000 円、支部会費 2,000 円) 入会金なし

総合会員 本会会誌『野鳥』と支部報『しらこぼと』を購読する会員

年会費 7,000 円(本会会費 5,000 円、支部会費 2,000 円) 入会金 1,000 円

支部型会員 支部報のみを購読する会員

年会費 3,000 円(本会会費 1,000 円、支部会費 2,000 円) 入会金 1,000 円

家族会員 個人特別会員、総合会員又は支部型会員の家族  
年会費 500 円(本会会費 500 円、支部会費なし) 入会金なし

4. 会費の内本会会費については、本会の規定による各種割引制度の適用もある。

第7条(入会) 会員になろうとする者は入会申込書、会費及び入会金を添えて本会又は支部に提出しなければならない。

第8条(退会) 1. 会員が会費を滞納したときは、退会となる。

2. 会員が本会及び支部の名誉を著しく傷つけ又は本会及び支部の目的に反する行為のあるとき、あるいは本会及び支部の存在を害する虞れのあるときは、役員会の決議を経て退会させることができる。

## 第3章 役員

第9条(役員) 支部には次の役員をおく。

- 支部長 1 名
- 副支部長 3 名以下
- 幹事若干名
- 監事 2 名

第10条(役員を選任) 1. 役員は総会において、個人特別会員、総合会員又は支部型会員の中から選任する。

2. 支部長、副支部長及び監事は役員の変選による。

第11条(役員職務) 1. 支部長は支部を代表し業務を総理する。

2. 副支部長は支部長を補佐して業務を掌理し、あらかじめ支部長が定める順位により、支部長が事故あるときはその職務を代行する。

3. 幹事は役員会を構成し支部の業務に関し審議決定し、役員の変選により会務を分担し事業の遂行をはかる。

4. 監事は、民法第59条の職務を行なう。

第12条(役員任期) 1. 役員任期は1年とする。ただし再任

を妨げない。

2. 役員は任期終了後も後任者が就任するまでその職務を行なう。

3. 補欠による役員任期は前任者の残任期間とする。

第13条(役員解任、補欠) 役員が支部の役員として不適当と認められる時は役員会の3分の2以上の議決又は総会においてこれを解任及び補欠することができる。

第14条(評議員) 本会の評議員として役員の中から1名互選する。

第15条(顧問) 1. 支部には必要に応じて顧問を置くことができる。

2. 顧問は役員会の承認を経てこれを委嘱する。

3. 顧問は支部の事業について役員会に助言を与えることができる。

## 第4章 会議

第16条(総会) 1. 総会は個人特別会員、総合会員又は支部型会員をもって組織し、通常総会は毎年1回5月又は6月に開くものとする。

2. 臨時総会は役員会が必要と認めるとき又は個人特別会員、総合会員、支部型会員の3分の1以上から会議の目的を示して請求があったとき、開かなければならない。

3. 総会を招集するには少なくとも開催日の7日前には会議の日時、場所、会議の目的を示して会員に通知しなければならない。

第17条(総会の議決) 1. 総会の議事は出席者の過半数で決し、可否同数の場合は議長が決するところによる。

2. 支部規約の変更は出席者の3分の2以上をもって決する。
3. 支部の存在に関わるほど重大であると判断される事項については、会員全員の意思を十分に反映できる方法を考慮しなければならない。

第18条(総会の議決事項) 総会では次の事項を議決する。

1. 規約の変更
2. 役員を選任及び解任
3. 事業計画、事業報告、予算、決算の承認
4. その他支部の運営上特に必要な事項

第19条(役員会の開催、成立) 役員会は、支部長又は役員2分の1以上が必要と認めるとき、開催される。

第20条(役員会の議決) 役員会は本規約で定められたもの他、会務執行に関する事項その他の事項を議決して処理する。又その議決は第17条の規定を準用する。

## 第5章 資産及び会計

第21条(資産及び運用) 支部の資産は次の通りとし、経費その他に運用する。

1. 設立当初、支部設立準備会から継承されたもの
2. 会費及び寄付金
3. 事業から生ずる収入及びその他の収入

第22条(事業及び会計年度) 支部の事業及び会計年度は1年として、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終る。

## 第6章 委員会及び部

第23条(委員会及び部) 1. 支部は会務運営ならびに第4条の事業遂行の為、必要な委員会及び部を設けることができる。

2. 委員会及び部の設置及び廃止は役員会で決議する。

## 第7章 分会

第24条(分会) 支部は目的推進のために支部会員で構成された分会を役員会の承認により設置または廃止することができる。

## 第8章 その他

第25条 この規約に定めない事項については、本会の寄付行為の定めるところによる。

## 附 則

第26条 1. この規約は、本会理事会にて支部設立の承認のあった日(昭和59年4月24日)から施行する。

2. 支部設立初年度の役員は、第10条の規定にかかわらず、設立準備会に於て決定された役員とする。

3. 支部設立初年度は、以上の規定にかかわらず、第1回役員会を以て総会にかえる事ができる。

変更: 昭和62年6月7日・平成6年6月26日・平成12年6月25日・平成14年6月30日

1. メニュー

水辺の鳥カワセミは魚や水生昆虫などを食べ、穀類や果実や草本類は食べない。各地からメニューを取り寄せ、「表-1 お食事メニュー」として示す。

2. 食事スタイル

カワセミの漁法は待ち伏せ漁だ。餌場の止まり木で獲物を待ち伏せし、水深の浅い所に出てきた動きの鈍い、しかも、小物より大物を狙って水中にダイビングして捕る。少ない労力でたっぷりの餌を捕って食べる最適採食を実践するスタイルに窺える。このとき、目を保護するため瞼の裏にある瞬膜を閉じる。水中ではダイビング姿勢のまま一直線に体を伸ばして獲物に突進し、嘴で突き刺しはせず、上下の嘴でくわえ捕る。獲物をゲットすると、くわえた魚が胸ぐらに抱え込まれるように首筋を折り曲げ、尾羽と両足を下方に向けて開き、急制動をかける。同時に、折り曲げていた首筋を上方向に伸ばし、一気に水面に浮上する。止まり木に舞い戻り、魚を上へ抛り上げる要領でくわえ直し、首を振り回して魚を止まり木にたたきつける。気絶して動かなくなった魚を少しずつくわえ直し、魚の頭を喉の奥に落とし込むようにして丸飲みにする。

3. お食事タイム

カワセミは日の出から日没まで食べ続けて

いる。どのくらい食べるのかはわからないが、食事間隔を推測できる資料があるので紹介する。資料は、一カ所の餌場を利用し、ヒナやメスに与えず、捕ったその場所周辺で食べている、という条件のものを私の撮影手帳から集め、「表-2 捕食の間隔」に示した。

一回の飛来で複数の獲物を捕ることもあるが、飛来回数一回とカウントした。観察延べ時間、その時間内に飛来した回数、時間を回数で除して飛来間隔、すなわち、お食事タイムの間隔と読み替えてみた。消化に要する時間は、獲物の大小で異なるから平均的な目安として、33.7分/回を求めた。

4. フンとペリット

カワセミの消化器管は、口からお尻まで砂囊という管が一本通っているような簡単な構造になっているといわれる。この消化管の中で餌は約30分で消化される。大腸は無いので食べ物を体内に備蓄できない。栄養分を吸収すると、骨などの固形物の残りは海綿状の蘭玉(ペリット)にして口から吐き出す。膀胱も無いので尿酸とフンを一緒に排泄する。

カワセミの食生活は、餌を飲み込んだ後の満腹と、消化と排泄の後の空腹と、絶えず両極端の状態に身を置いていることになる。約30分ごとに空腹の状態になるので、日の出から日没まで食べ続けなければならないのだろう。食べ続けられなければ餓死するしかない。カワセミはそんな食生活を営んでいる。

表-1 お食事メニュー

メニュー	文 献	著 者	餌 の 内 容
石狩川メニュー	旭川河川事務所報告書 (水と緑の戦略)	石川信夫	主食は川魚、カエルやその幼虫、エビ。 旭川市内の半米別川ではウグイ類が多く、これとドジョウ類。
北の大地メニュー	「野鳥」No. 429号 (餌の捕り方に見る三種の生態)	鶴田 忠	A) 魚類 フナ、メダカ、モロコ、モツゴ、カワムシ、オイカワ、ウグイ、ドジョウ、ハゼ類、アブラハヤ、北海道特産のサケ、マスの稚魚、ヤチウグイ、トミヨ。養魚池から失敗してくる金魚とコイ。 B) 昆虫 ヤゴ、ミズカマキリ、トビケラの幼虫、ミズスマシ、ゲンゴロウの幼虫、マツモムシ。 C) 甲殻類 サワガニ、アメリカザリガニ、カワエビ、北海道特産ザリガニ。
彩の国メニュー	「カワセミ清流に翔ぶ」 (平凡社)	鶴田 忠	ウグイ、オイカワがほとんどで、その他、フナ、モツゴ、アブラハヤ、シマドジョウ、ヨシノボリ、メダカ、サワガニ、水生昆虫
迎賓館メニュー	「帰ってきたカワセミ」 (地人書館)	矢野 亮	モツゴ、ザリガニ、スズエビ、ヨシノボリ、ドジョウ、金魚類。
富士山麓メニュー	「カワセミの四季」 (平凡社)	中川維三	モツゴ、アブラハヤ、そしてドジョウ。
長良川メニュー	「気分はカワセミ」 (平凡社)	三浦勝子	ドジョウ、メダカ、カワヨシノボリ、ザリガニ、アメリカザリガニ
入間川メニュー			私の採鳥地点で多いのはモツゴ(クチボソ、ハヤ)でときおりヨシノボリ(ゴリ)やドジョウも捕食する。水生昆虫も捕食するが、嘴の間で見分けるのは難しい

表-2 捕食の間隔

観察年月日	観察時間 (分)	飛来回数 (回)	飛来間隔 (分/回)
'94/12/09	345	8	43.1
'94/12/10	210	5	42.0
'94/12/18	315	8	39.4
'94/12/24	330	10	33.0
'94/12/25	295	9	32.8
'94/12/29	270	8	33.6
'94/12/30	170	3	56.7
'95/01/02	220	6	36.7
'95/01/03	415	10	41.5
'95/01/07	275	13	21.2
'95/01/08	310	12	25.8
'95/01/16	330	6	55.0
'95/01/21	190	7	27.1
'95/09/28	100	5	20.0
'95/09/29	385	13	29.6
'95/10/05	295	9	32.8
'95/10/06	200	8	25.0
'95/10/13	225	6	37.5
'95/10/17	100	5	20.0
'95/10/25	195	6	32.5
'95/10/26	290	5	58.0
計	5,465	162	33.7 (平均)



# 野鳥情報

さいたま市大宮ゴルフコース ◇5月5日、キビタキ3ヶ所、センダイムシクイ2ヶ所、エゾムシクイ1ヶ所でそれぞれさえずりを聞いた（立岩恒久）。

さいたま市東大宮 ◇5月24日午前8時、カッコウの鳴き声（新井浩）。

さいたま市日進町1丁目 ◇5月24日、カッコウ1羽、梢でさえずり（浅見健一）。

さいたま市三橋 ◇5月24日、鴨川第一調節池でカイツブリのヒナ4羽、一列で親の後ろについて泳いでいた。コアジサシ2羽、さかんにダイビング。同日、鴨川でカルガモのヒナ8羽、まだ小さくて可愛い。コチドリ1羽。イワツバメ3羽、田んぼで巣材の土を集めていた（浅見健一）。

さいたま市島町 ◇5月26日午前7時30分、シラコバト1羽、路上で発見。2～3分して民家軒先に。足環をつけていたので5m位まで近寄り読み取った。なかなか飛び立たないので、10分位でそこを去った。足環No.01859（新井浩）。

さいたま市見沼田んぼ ◇6月頃、電線にとまっていたカラスどうしが偶然接触したようで、1羽が感電したらしく落ちてしまった。たまたまその場に居合わせて、落ちたカラスを拾った農家の人が、カラスに誤解されたらしく、それからというものカラスに襲われ困っているという話を本人から聞きました（星野雅彦）。



セイタカシギ（新井勇吉）



コアジサシ幼鳥（海老原美夫）

さいたま市大牧・下山口新田 ◇6月13日、草地で「ジュビツジュルルル・・・」と鳴いているので近寄ったら、ウズラが2羽飛び出した。♂と♀だったのだろうか。ヨシ原でヨシゴイ♂確認。久しぶりに見るヨシゴイはとても小さくみえた。6月24日、ヨシゴイ1羽、釣り人の前を飛んでヨシ原の中へ飛び込んだ。コヨシキリが黄色い口の中を見せて鳴いていた。ヒナ連れのカルガモ、やはりヒナ連れのキジ♀。バンは水面で2羽が蹴り合ってケンカに夢中。コアジサシ4羽、「キリリ・・・」と水面を飛び回り、とてもニギヤカ（鈴木紀雄）。

さいたま市大牧 ◇7月17日、ホトトギス1羽、このところ朝早くに声は聞こえるので気になっていましたが、今日偶然見ることができました。民家のTVアンテナで「キョキョキョ」と甲高い声で鳴いていました。慌てていたので写真はうまく写りませんでした（落合英二）。

桶川市若宮 ◇2月22日朝、例年より1週間以上早くウグイスの初鳴き。自宅ベランダの方から「ホーホケキョー」と聞こえてきた。4月1日午前7時30分、自宅でアオジの澄んださえずりを聞いた。4月18日午前6時30分、ヒヨドリ20羽以上の群れ、自宅上空すれすれを北東へ渡っていった。4月19日午前6時30分、ヒヨドリ20羽以上の群れ、自宅上空を北東へ渡っていった。4月24日、ヒヨドリ30羽以上の群れ、自宅上空

を北東へ渡っていった。5月12日午前5時、カッコウの初鳴き。自宅ベランダの方から2回聞こえてきた。5月25日午前6時、カッコウ2回鳴いた。5月28日午後9時20分、ホトトギス初鳴き。自宅北の部屋から、「トッキョッキョキョ・・・」3回鳴きながら北方へ渡っていった。私の記録では、今年の初鳴きは6月3日の同時刻でした(立岩恒久)。

桶川市井戸木3丁目 ◇5月18日午後4時30分、カッコウ1羽、イチョウの木で20分間「カッコウ・・・」とうるさいほど鳴いていた(立岩恒久)。

幸手市上吉羽 ◇5月20日、ホトトギス1羽。5月21日、カッコウ1羽。5月26日、コゲラ1羽(秋間利夫)。

越谷市恩間新田 ◇6月24日、今年もサギのコロニーは健在。ゴイサギ、アマサギ、コサギ、ダイサギなどが繁殖中。近くに行くとうるさいし、臭い。近所の人々が温かく見守っているようで一安心(鈴木紀雄)。

岩槻市和土 ◇6月28日午後2時30分頃、和土住宅公園内にある池でコアジサシ1羽、盛んにダイビングを繰り返していた(藤原寛治)。

所沢市山口 ◇7月22日朝、20羽以上と思われるエナガが自宅マンションの南側に来た。ケヤキ、桜、アラカシ、コナラの木で採餌しながら、西側へ次々飛んで行った。この時期に、これだけのエナガを見るのは珍しい(小林ますみ)。

玉川村雀川ダム ◇5月19日午前6時~9時、雀川ダムでサンコウチョウ♂2羽♀1羽、行風山登山口付近でも♂1羽♀1羽確認。クロツグミ♂1羽、枯松の頂きで盛んにさえずっていた。ホトトギスのさえずりが谷



亜種リュウキュウアカショウビン(手塚正義)

間に響きわたっていた。行風山登山口付近でガビチョウ数羽。雀川ダムのヒノキ林でヨタカ1羽、「キョッキョッ・・・、キョッキョッ・・・」と繰り返し鳴き続けた。サシバ2羽、オオタカ1羽他合計24種。5月25日午前7時45分~10時30分、ヤマセミ1羽、ダムの上空を鳴きながら通過。ハチクマ2羽、オオタカ1羽、サンコウチョウ♂1羽♀1羽、イカル数羽、クロツグミ、ホトトギス、ウグイス他合計20種(後藤康夫)。

小川町館川ダム ◇5月19日午前10時30分~午後1時30分、キビタキ、ヤブサメ、クロツグミ、ホトトギス、イカル、アカゲラ、アオゲラ、ノスリ、ヤマガラ他合計18種(後藤康夫)。

本庄市久々宇 ◇6月22日、利根川河川敷のコアジサシのコロニーにオオタカ♀成鳥侵入。平然と歩き回っていた(鈴木紀雄)。

本庄市利根川 ◇6月29日朝、坂東大橋下流100m位のコアジサシのコロニーの申州付近でセイタカシギ1羽。翌日の早朝にはすでにいなかった(堀越省一)。

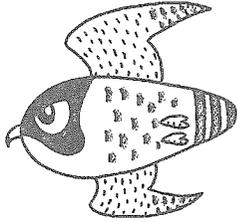
表紙の写真

キョウジョシギ(チドリ目シギ科キョウジョシギ属)

シギ類の識別はまず、体型と大きさで候補を絞り込む。次に翼や腰の白色部分のパターン、嘴や足の色、行動の特徴などから判定する。もちろん夏羽ならば、その色や模様で識別できるが、どちらかという冬羽や中間羽を見ることの方が多い。本種の場合、お世辞にもカッコイイとは言えない太目・短足の体型、石などをひっくり返す独特な行動、そして表紙の写真のような飛翔時の白色部のパターンが識別のポイントになる。

(写真と文・編集部)

# 行事あんない



(何森 要)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちがあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般 100 円、会員と中学生以下は 50 円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後 1 時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集会所までお出てください。

## リーダー研修会

期日：9月1日（日）

会場：北本市中央公民館

詳しくは8月号をご覧ください。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月8日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乗車。

担当：島田、森本、倉崎、高橋、後藤、藤田、栗原、大澤

見どころ：秋の渡りの時期は始まっています。当地ではエゾビタキ、ノビタキ、ショウドウツバメ、カッコウたちが英気を養っています。そんな鳥たちを探してみましょう。

## シギ・チドリ類県内調査

期日：9月14日（土）

埼玉県支部では、春と秋の2回、シギ・チドリ類の調査を行っています。それほど堅苦しいものではありませんので、多くの会員の参加・ご協力をお願いいたします。

### ◆秋ヶ瀬（さいたま市）

集合：午前9時30分大久保浄水場の北西角近くの土手の上、グラウンド入り口。

担当：石井 智

解散は昼頃の前定。調査のため参加費は不要です。雨天でも行います。

## さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：9月15日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、兼元、森（力）、小菅、新部

見どころ：まだ夏の日差しは残っているがなんとなく秋の気配がする。鳥を見はじめたころ、秋の訪れが待ち遠しかった。夏の間少なかった鳥たちが、数を増していく。南へと通り過ぎる渡り鳥、彼岸花、イナゴ、トンボも待っています。

## 『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月21日（土）午後1時～2時ころ

会場：支部事務局 108号室

## タカの渡り調査

期日：9月21日（土）から23日（月）の間の1日

恒例の調査、一日空を眺めているだけで貴重なデータが得られます。初めての方も気軽にどうぞ。雨天（小雨でも）中止。調査のため参加費は不要です。

### ◆天覧山（飯能市）：21日（土）

集合：午前9時から正午まで。ご都合の良い時間に山頂展望台へお越しください。近くに水洗トイレあり。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩約30分  
担当：佐久間

22日（日）には、下記の地点でも調査を行います。

◆ 物見山駐車場（東松山市・鳩山町）

◆ 少年自然の家本館屋上（小川町）

調査時間は朝から正午過ぎまで。お近くの方はご都合のよい時間にお越しください。

#### 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月22日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8：43発、所沢8：36発に乘車

担当：長谷部、高草木、藤掛、中村（祐）、山本（真）、久保田、山本（義）、石光

見どころ：ツバメの姿が見えなくなり、コガモが渡ってくればもう秋。季節の移り変わりを教えてくれる生き物たちを観察しよう。

#### 坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月23日（月・祝）

集合：午前9時、東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越8：13→坂戸にて越生線乗り換え8：42発。または寄居7：53→小川町乗り継ぎ、坂戸にて越生線乗り換え。JR川越線大宮7：35→川越にて東武東上線乗り換え。

担当：藤掛、高草木、石井（幸）、青山、久保田、志村、増尾、佐藤（壮）、池永、藤澤、杉原、山田（義）

見どころ：暑さ寒さも彼岸まで。過ごしやすい季節になりました。高麗川の澄み切った大空を、この時期サシバが通過していきます。魅力ある探鳥地です。リーダーたちが皆さんのおかけをお待ちしています。

#### 本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：9月29日（日）

集合：午前8時50分、JR高崎線本庄駅北口

集合後、十王バス新伊勢崎行きにて「坂東大橋南詰」下車。午前9時30分現地集合可。ただし工事のため従来の場所には駐車できません。

担当：北川、倉崎、堀（敏）、堀（久）、小池（一）、小池（順）、新井（巖）

見どころ：秋の渡りの鳥たちを探しましよ

う。新しい橋の工事のため環境は少し変わってしまいました。ショウドウツバメやノビタキは来てくれるでしょうか。

#### 松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：9月29日（日）

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線北越谷駅東口、集合後午前8時50分発エコー行きバスにて「松伏高校前」下車。または午前9時30分松伏記念公園北駐車場。

担当：田邊、橋口、大塚、神場、吉岡（明）、小菅、土澤、本田

見どころ：公園や農耕地にいる身近な鳥たちをじっくりと観察しましょう。サギ類は何種見られるのでしょうか。シラコバトは定番。必ず見られます。

その他：今回は松伏中央公民館との合同開催になりました。

#### 長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月26日（土）～10月27日（日）

集合：26日午前9時10分、長野駅コンコース。新幹線改札口を出て右側。

交通：「あさま551号」（東京7：00→大宮7：26→熊谷7：40→高崎7：54→長野8：50着）、または「あさま1号」（東京7：32→大宮7：56→長野8：57着）。

費用：11,000円の予定（1泊3食、現地バス代、保険料など）。万一過不足の場合は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。

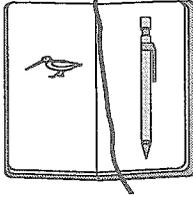
定員：30名（先着順、県支部会員優先）

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記して、菱沼一充

）まで。

見どころ：普段見ることのできない、ムギマキ、マミチャジナイなどの旅の鳥、マヒワ、アトリなどの冬鳥など。それに紅葉と秋の味覚も楽しめます。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。



# 行事報告

4月7日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 11人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ ミサゴ トビ ノスリ チュウヒ オオバン イソシギ タシギ セグロカモメ シラコバト キジバト アマツバメ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (47種) 早朝雨のため参加者が少なかった。カモの数がめっきり少なくなり、北東池に集合していた。東橋から川沿いに北上。頭上20m位をアマツバメ1羽が通過。肉眼でも識別ポイントがよく見えた。谷中村史跡ゾーンへ入るがウグイスのさえずりの他は、春の渡りはまだのようだ。村役場近くで思いがけずウグイスが姿を見せてくれた。鳥合わせ後の帰路、下見のとき見たアシ原浄化ゾーンの同じ場所でキジが見張りをしていた。きっと雌が近くで卵を抱いているのだろう。(橋口長和)

4月7日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 19人 天気: 曇

カワウ ゴイサギ コサギ カルガモ コガモ ハシビロガモ オオタカ コジュケイ キジ バン コチドリ イソシギ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 今にも降り出しそうな空。冷たい空気。中止になるかもしれないという思いをよそに19名が集まった。だんだん天候も回復し、気温も上がっていくにつれ、ヒバリが天高く、ハクセキレイ

が透き通った声で鳴き、ウグイスがさえずり、オオタカとキジが顔を見せ、コチドリが千鳥足で歩き、最後にカワセミが「ツウイーッ」と飛んでいった。(伊藤芳晴)

4月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 71人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ トビ ハヤブサ コジュケイ キジ コチドリ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ マヒワ シメ ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (44種) 晴天で他に探鳥会がないためか大人数となった。朝、明戸方面にマヒワ、ニュウナイスズメがいたとの情報で、明戸に向かった。ニュウナイスズメは少数の人しか見られなかったが、マヒワはいたるところで見られた。また、メスのキジがゴルフ場内から林を抜け、土手を越え、延々とハイキングしていたのには笑いを誘われた。(和田康男)

4月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 11人

新井浩、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、成瀬慶一、原田譲、藤掛保司、藤澤洋子、増尾隆、松村禎夫、山田義郎

4月21日(日) さいたま市 三室地区

参加: 22人 天気: 小雨

カルガモ コガモ キジ バン コチドリ イソシギ タシギ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ

アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ  
ハシブトガラス ハシボソガラス (25種) 開始直  
前から降りだした。久しぶりに小雨決行。リーダ  
ー一人に参加者ひとり、静かな心地よい探鳥会だ  
った。干潟でタシギ、コチドリ、イソシギが出現  
してコチドリの声が初夏の到来を思わせた。代用  
水の近くの樹木の下でキジの番と綺麗なアオジを  
見たりして春の小雨探鳥会もいいものと思った。  
(楠見邦博)

4月21日(日) さいたま市 秋ヶ瀬公園

参加: 34人 天気: 雨

カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ カルガモ  
コガモ コジュケイ キジ タシギ ユリカモメ  
キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ  
イ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグミ ウグイ  
ス キビタキ オオルリ シジュウカラ メジロ  
アオジ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラ  
ス ハシブトガラス (30種) 浦和駅西口に着いた  
ときは、もう雨。上がりそうもない空に、どうし  
ようかと迷ったが、中止の雰囲気ではなく、決行  
に決めた。鴨川べりでもう靴もズボンもびしょぬ  
れ。ゴイサギ、タシギ等を見る。公園に入ると霧  
でかすみ見づらい。アオジの水浴びを見ていると  
キビタキの声。居た。右に左に5~6度。全員見  
たようだ。その後、オオルリの声聞く。よかつ  
た!!!  
(倉林宗太郎)

4月28日(日) 東松山市 物見山

参加: 49人 天気: 晴

カワウ カルガモ トビ オオタカ コジュケイ  
キジ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ  
ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ヤブサメ ウ  
グイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオ  
ジ マヒワ イカル シメ スズメ カケス オ  
ナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種)  
ウグイスが集合場所で朝の挨拶。オオタカが出発  
の合図。新緑をのんびり楽しんでいたが、ヤマ  
ツツジを見ながら、入山沼では久しぶりにカワセ  
ミが出てくれた。駐車場にウサギが2羽遊んでい  
た。山野さんよりのメールで、なぜウサギは1羽、  
2羽と数えるかの回答があった。獣を食することが  
ご法度の時代に、ピョンピョン跳ねるウサギを  
方便として鳥に見立てて「ウサギは獣にあらず。  
鳥ならば食するも一向に構わず。」と言って食した

そうだ。(藤掛保司)

4月29日(月、休) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 25人

阿久澤廣、阿部尚徳、石井智、海老原教子、海老  
原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、加藤浩、北村隆、  
久保田忠資、倉林宗太郎、佐久間博文、白井聰一、  
杉原みつ江、高橋優、立岩恒久、時吉由子、野口  
幸広、馬場友里恵、肥留間梅子、福井恒人、藤掛  
保司、松井昭吾、百瀬修、米岡茂代

5月4日(土、休) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 58人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ  
ヒドリガモ バン コチドリ シロチドリ メダ  
イチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン  
ハマシギ オバシギ キアシシギ オオソリハシ  
シギ ダイシャクシギ チュウシャクシギ セイ  
タカシギ ユリカモメ セグロカモメ コアジサ  
シ キジバト ヒバリ ツバメ ヒヨドリ モズ  
オオヨシキリ セッカ スズメ ムクドリ オナ  
ガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 潮  
回りが悪かったが、残っている干潟の上でかたま  
って休んでいるシギ・チドリ類を見ることができ  
た。あれが「佃煮」状態なんですよ!

(杉本秀樹)

5月5日(日) 加須市 はなさき公園

参加: 25人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ  
ギ カルガモ コガモ チョウゲンボウ キジ  
コチドリ シロチドリ クサシギ イソシギ タ  
シギ コアジサシ シラコバト キジバト ヒバ  
リ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒ  
ヨドリ モズ ツグミ オオヨシキリ セッカ  
ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナ  
ガ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 朝  
早くから気温がぐんぐん上がる。スタートする頃  
には汗ばむほどになった。開始早々キジのほろ  
うちでお出迎え。まだあまり背が伸びていない葦原  
ではオオヨシキリがせわしく歌っていた。遊水池  
ではシギ・チドリ類が見られた。かわいらしいシ  
ロチドリも姿を見せてくれた。五月の風の中、コ  
アジサシが気持ちよさそうに飛んでいた。

(中里裕一)

## 連絡帳

### ●普及活動の報告

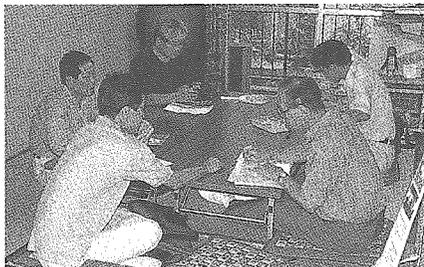
6月8日(土)、さいたま市立浦和博物館と三室公民館共催の親子探鳥会が開催され、楠見邦博・倉林宗太郎・森力・新部泰治の4名が、「カルガモの親子が見られるかな!」というテーマのもと、23名の参加者にわかりやすく指導しました。

6月20日(木)、本庄市立中央小学校5年生の総合的な学習の時間「野鳥観察」で、町田好一郎が指導。学校から本庄市大久保山村付近までの野鳥を観察しました。

7月7日(日)、坂戸市高麗川鶴舞・浅羽地区で開催された坂戸市「ふるさとの川高麗川を考える会」主催第15回野鳥観察会で、増尾隆・増尾節子・坂口稔の3名が指導。15名の参加者が24種を観察して楽しみました。

### ●普及部会議の報告

8月3日(土)午後4時から、普及部の役員・リーダーが集まって、普及部会議がひらかれました。



事務局の予定欄などでもご紹介していますが、毎偶数月の第一土曜日、榎本秀和普及部長を中心に、支部の行事予定やさまざまな普及活動について話し合っているものです。

### ●本部の寄附行為など改訂作業開始

会社の定款に当たるものを、財団法人では、「寄附行為」と呼びます。野鳥の会の寄附行為

と様々な規程・規則類を全面的に整理し直すための審議会が設置され、海老原美夫副支部長が本部の監事として参加、7月26日(金)に渋谷区初台の本部事務所会議室で開かれた第1回の会合に出席しました。

### ●ごめんなさいコーナー

7月号6ページ、「出逢い(陶山和良)」の中の「ドイツ唐松」は、「ドイツ唐絵」の誤りでした。

### ●9月の事務局 土曜と日曜の予定

- 7日(土) 10月号編集作業。研究部会議。
- 14日(土) 10月号校正。
- 21日(土) 10月号袋づめの会。
- 23日(月・秋分の日) 役員会。

### ●会員数は

8月1日現在2,665人です。

## 活動報告

- 7月11日(木) 普及部便り発送作業(海老原教子、楠見文子)。
- 7月13日(土) 校正作業(海老原美夫、大坂幸男、喜多峻次、藤掛保司、山田義郎)。
- 7月21日(日) 役員会議(司会:田中幸男、各部の報告・リーダー研修会の内容・行事案内の追加と変更・その他)。
- 7月22日(月) 支部報のみの会員宛て8月号発送(倉林宗太郎)。

## 編集後記

去る6月3日、東京～三宅島～八丈島間の定期航路客船「すつれちあ丸」がリタイアした。当支部でも、1988年から、2000年の三宅島噴火直前まで、毎年お世話になった思い出深い船である。探鳥会を通じての関わりでしかないが、それでも一抹の寂しさを覚えてならない。(大ひで)

しらこぼと 2002年9月号(第221号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130  
 〒336-0012 さいたま市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号  
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>  
 編集部への原稿 [yamabezuku@hotmail.com](mailto:yamabezuku@hotmail.com) 野鳥情報 [toridayori@hotmail.com](mailto:toridayori@hotmail.com)  
 住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階  
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社